

映画の黄金期に生まれた、伝説の傑作。

あの頃——
僕たちの胸を熱くした、
愛、友情、そして映画。



あんなに 愛しあったのに

エットーレ・スコラ監督作品

—「自転車泥棒」のヴィットリオ・デ・シーカに捧ぐ。—

原案・脚本：アージェ&スカルベリ/エットーレ・スコラ 撮影：クラウディオ・チリッロ 美術・衣裳：ルチャーノ・リッチェーリ

音楽：アルマンド・トロヴァヨーリ 製作：ピオ・アンジェレッティ/アドリアーノ・デ・ミケーリ

出演：ヴィットリオ・ガスマン/ステファニア・サンドレリ/ニーノ・マンフレディ/ステファノ・サッタ・フロレス

1974年/イタリア/カラー+B&W/ビスタサイズ/2時間3分/LA DEANTIR/配給：株式会社 シネセブン

75年モスクワ映画祭金賞/外国記者協会ゴールデン・グローブ監督賞/サン・ヴァンサン賞、金のグローレ監督賞、主演女優賞/シャムロス・ユーモア映画祭グランプリ

特別出演：ヴィットリオ・デ・シーカ/フェデリコ・フェリーニ/マルチェロ・マストロヤンニ

C'ERAVAMO TANTO AMATI

E.スコラが「映画への愛」を込めて描く、笑いと涙の人生スケッチ。

全世界で絶賛された
スコラの代表作、遂に公開!!



「あんなに愛したのに」は、「特別な一日」(71)や「マカロニ」(84)などの名作によって日本でもファンが多いイタリア映画界の名匠エットーレ・スコラ監督の70年代の代表作

である。第二次大戦中のレジスタンスの同志であった三人の男たちのそれぞれの愛と別離の人生がユーモラスに、そして切なく描かれ、また「イタリアの過去30年、1945年から現在(74)までの総決算の映画を作ろうとした」と語ったスコラ監督の言葉通り、戦後イタリア社会の変化を巧みに描いている。この作品は75年度モスクワ映画祭金賞を始めゴールデン・グローブ監督賞等数々の受賞に輝く、まさに幻の傑作である。

一人の女を愛した

三人の男たちのほろ苦い人生

アントニオとジャンニ、ニコラの3人は、第二次大戦中のレジスタンス時代からの親友だった。戦争が終わり、アントニオは病院の担架係に、ジャンニは弁護士事務所で助手に、ニコラは高校の教師となる。アントニオは入

院患者の一人ルチアーナと知り合い心を奪われるが、ルチアーナはなんとジャンニと恋に落ちてしまう。しかしジャンニは、成り上がりの建設業者の娘と結婚してしまい、悲嘆にくれたルチアーナはニコラと一夜を共にした後自殺を図り、駆けつけたアントニオの手当で未遂に終わる。年月が過ぎ、ジャンニは実業家として成功し、ニコラはデ・シーカの「自転車泥棒」に影響を受け映画の批評を始める。アントニオは、女優の道を歩み始めたルチアーナと偶然再会するが喧嘩別れをしてしまう。イタリアは今や多難の時期を迎えていた。離婚法成立、ファシストの陰謀……。そんな中で、何十年ぶりかでアントニオ、ジャンニ、ニコラそしてルチアーナの4人は再会する。それぞれの胸に30年間の熱い青春の想い出を抱いて……。



C'ERAVAMO TANTO AMATI

映画ファンの胸を熱くする
数々の名画のシーン



「あんなに愛しあったのに」では、戦後のイタリア映画へのオマージュとして、数々の名場面が散りばめられている。ニコラの人生を変えてしまうことになるデ・シーカの「自転車泥棒」やデ・シーカ本人の貴重な映像(デ・シーカは、「あんなに愛しあったのに」が製作された年に死去した)をはじめとし、アントニオがルチアーナと再会する場面

には「甘い生活」のトレヴィイの泉の伝説的な撮影シーンが再現され、フェリーニとマストロヤニが実名で特別出演しているという豪華さである。他にも様々な名画が随所に登場、私たちの目を存分に楽しませてくれる。

ベテラン俳優の味わい深い演技と

円熟したスタッフ

ジャンニを演じるヴィットリオ・ガスマンは、「にがい米」(48)から最近では「ラ・ファミリア」(87)における洗い演技が光るベテラン俳優である。アントニオ役のニーノ・マンフレディはガスマン、マストロヤニに次いでスコラ作品に多く出演している。またルチアーナには、「暗殺の森」(70)「フェラーラ物語」(87)など70年、80年代を通じてイタリアのトップスターであるステファニア・サンドレリ。スタッフは、撮影のクラウディオ・チリッロ、音楽のアルマンド・トロヴァヨリなどスコラ映画の常連が見事なチームワークで作品を支えている。

12月上旬のお正月ロードショー

特別鑑賞券1,300円好評発売中 当日一般1,600円・学生1,300円(税込) ※'90年12/31日・'91年1/1日・特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場にてお求め下さい。 2回・3回は6:40の回休映。

銀座テアトル西友
銀座線京橋駅下車、2番出口上がる ☎03(535)6000

連日				±のみ
11:10	1:40	4:10	6:40	夜9:05